

第11回福山駅前広場協議会

日時：2025年（令和7年）9月9日（火）14時～16時

場所：福山市市民参画センター4階 会議室1

内容

●事務局

本日はお忙しいところにお集まりいただきありがとうございます。これより第11回福山駅前広場協議会を開催いたします。私は本日司会をさせていただきます、福山駅周辺再生推進課の山田と申します。よろしく願いいたします。では、開会にあたりまして、建設局長の市川よりご挨拶申し上げます。

《開会挨拶》

●建設局長

本日は、お忙しい中、第11回福山駅前広場協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。前回7月25日の協議会では、JR西日本からのご報告を受け、北口広場へのバスターミナルの移設を当面見送ることとしました。そして、先月9日には、幅広く市民の意見を伺うため、市民対話集会を開催しました。約220人に参加いただき、本市から駅前広場のあるべき姿や求められる機能についてご説明し、参加者からご意見をいただきました。今後は、あらためて計画案を検討していくこととなりますが、本協議会での議論のほか、来月から開催する「ふくまちヒロバラボ」や経済界、商店街などの各種団体からもご意見を聴くように考えています。そして、年度内に基本計画をとりまとめたいと考えています。本日の協議会では、対話集会の報告をさせていただいた上で、交通結節機能と広場機能がバランスよく調和した新たな計画案や今後の進め方、大切にする視点などについて、ご意見をいただきたいと思っております。皆様方の活発なご議論をお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

《座長挨拶》

●清水座長

皆さんこんにちは。お暑い中、毎回お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。本日も熱心な議論が活発に行われることを期待します。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、本日の出席者です。出席者については、お配りしております資料1をご確認ください。本日、広島県タクシー協会東部支部の山田支部長様にご

出席いただいておりますので、資料の修正をお願いします。次に、本日の進行及び配布資料について、ご説明いたします。本日の議題は、「福山駅前広場市民対話集会の報告及び今後の進め方について」です。次に配布資料についてです。資料1は本日の出席者名簿、資料2は福山駅前広場市民対話集会報告、資料3・4は付箋による意見、資料5は全体での意見交換の内容、資料6は参加者アンケート自由意見になります。それでは、これより議題に移りたいと思います。この度の会議はライブ配信を行っておりますので、ご発言をされる場合は所属とお名前をおっしゃってください。それでは、ここからの進行は清水座長にお任せしたいと思います。清水座長、よろしく願いいたします。

《意見交換》

●清水座長

事務局から資料に基づく説明をお願いしたい。

●福山駅周辺再生推進課長

資料2 福山駅前広場市民対話集会報告をご覧ください。1頁をご覧ください。目次になります。内容は1開催概要、2意見のとりまとめ、3アンケート結果、4市民対話集会のとりまとめです。2頁をご覧ください。1開催概要についてです。(1)周知方法、開催方法です。市の公式のライン、フェイスブック、ホームページでの周知のほか、周辺の町内会や商店街への周知、各施設へのチラシ設置を行いました。対話集会は昼と夜の2回開催で手話・要約筆記・キッズスペースを用意し、誰でも参加しやすいように配慮しました。(2)目的です。市民への周知や意見聴取が必要という協議会の意見も踏まえ、市民対話集会を開催することで、福山駅前広場再整備の目的や議論経過を丁寧に説明し、多様な意見をいただくことを目的として実施しました。(3)参加人数です。昼と夜、合計で222人に参加いただきました。昼の部は131人、夜の部は91人でした。3頁をご覧ください。2意見のとりまとめについてです。(1)付箋による意見収集です。グループでの意見交換にあたっては、参加者に付箋を配付し、次の2つについて記載をしていただきました。1つは、左側にある「福山市が魅力的なまちとなるため、駅前広場がどんな空間になれば良いと思いますか」、そして、もう1つは右側「福山駅前広場の再整備について、よく分からない点、もう少し詳しく聞きたい点は」を記載していただきました。4頁をご覧ください。(2)福山市が魅力的なまちとなるため、駅前広場がどんな空間になれば良いと思うか？についての意見の概要です。当日、黄色の付箋に記載していただいたものです。大きな分類としては、人のための空間です。これは、市民の交流やイベント・賑わいなどですが、そうした意見。それから交通、これは、交通結節機能や安全な移動などについての意見、それから左下の空間デザイン、これは快適な空間や自然との調和など、そして、歴史や文化、福山城との連携や福山のシンボルなど、に関する意見、また右上の現状維持の意見や、右下のその他では防災や安心安全などの意見がありました。ここでは意見の一部の記載になりますが、出された意見の全

ては、資料3に記載しています。5頁をご覧ください。(3) 福山駅前広場の再整備について、よく分からない点や、もう少し詳しく聞きたい点は?について、分類したものです。交通について、が多く、そのほか、事業目的、事業の進め方、駅周辺の再開発、事業費、市民意見などに関する内容がありました。これも出されたものの一部で、全ての内容は、資料4に記載しています。6頁をご覧ください。(4) 全体での意見交換の内容です。「全体で意見交換(質疑応答)」の部では、グループで出た質問を1つずつ発表し、その後、参加者からも質問や意見を発表してもらいました。多くの質問が出され、それぞれ回答しました。ここでは、その一部を記載しています。バスターミナルをどうするのか。福山らしさはどう考えているのか、広場にどのように人を集めるのか、について、それぞれ答えた内容を記載しています。そのほかの意見交換の内容については、資料5に記載しています。7頁をご覧ください。3アンケート結果についてです。アンケートは市民対話集会の参加者118人に回答していただきました。左上のグラフをご覧ください。回答者の性別は、男性が約7割、女性が約3割でした。右上のグラフをご覧ください。年齢は、50代以上が75%、40代以下が25%でした。左下のグラフをご覧ください。8歳未満のこどもの有無については、「いない」が約8割、「いる」が約2割でした。8頁をご覧ください。Q4市からの説明や質疑応答の内容が理解できたか、についてです。ここでは「理解度」と呼びます。上のグラフをご覧ください。「理解できた」「やや理解できた」と回答した人が48%、「理解できなかった」「やや理解できなかった」と回答した人が30%でした。次に理解度のクロス集計についてです。クロス集計とは、2つ以上のデータを掛け合わせて集計・分析する方法です。左下のグラフをご覧ください。性別と理解度のクロス集計、18歳未満のこどもの有無と理解度のクロス集計を行っていますが、性別やこどもの有無では理解度に、それほど大きな差が見られませんでした。右下のグラフをご覧ください。年齢と理解度のクロス集計です。「理解できた・やや理解できた」の割合を赤枠で示しています。40代以下はサンプル数が少ないですが、年代によって、ばらつきが見られました。9頁をご覧ください。Q5福山市が魅力的なまちとなるために、福山駅前広場を再整備することについて、どう思うかについてです。ここでは共感度と呼んでいます。上のグラフをご覧ください。「共感できる」「やや共感できる」と回答した人が41%、「共感できない」「やや共感できない」と回答した人が50%でした。次に共感度のクロス集計についてです。左下のグラフをご覧ください。性別と共感度のクロス集計では、比較的、男性の共感度が高くなっています。18歳未満のこどもの有無と共感度のクロス集計では、こどもがいると答えた人の共感度が比較的高くなっています。右下のグラフをご覧ください。年齢と共感度のクロス集計です。「共感できる・やや共感できる」の割合を赤枠で示しています。理解度と同様に、年代によって、ばらつきが見られました。10頁をご覧ください。Q6では、共感度を選択した理由について聞きました。ここでは、その結果について「共感できる・やや共感できる」と回答した方の回答理由を左側に、「共感できない・やや共感できない」と回答した方の回答理由を右側に記載しています。左側の「共感できる・やや共感できる」と回答した方の理由は、都市の魅力に関すること、こ

の中には、「福山市の魅力を発信」、「地域間競争に勝ち抜く」などがあります。また、人の集まり、これには「駅前が賑やかになると良い」などが理由となっています。そのほか、市民参加や交通についてなどが、共感できる理由になっています。「共感できない・やや共感できない」と回答した方の理由は、広場の必要性、この中には「駅前広場が福山の魅力になると思えない」「広場に緑や水を感じるのは駅でなくてもできる」などがあります。また、計画への疑問、これには「計画が不十分」などが理由となっています。そのほか、交通についてや市民参加についてなどが、共感できない理由になっています。11頁をご覧ください。Q4の理解度とQ5の共感度のクロス集計を記載しています。上のグラフが理解できた人の共感度の割合、下が理解できなかった人の共感度の割合で、縦軸が理解度、横軸が共感度の割合です。「共感できる・やや共感できる」の割合を赤枠で示しています。「理解できた」を回答した人は、「共感できる」と回答する人が多く、「理解できなかった」を回答した人は、「共感できない」と回答する人が多い傾向が見られます。一方で、理解できた方の中にも、共感できない方も一定の割合でおられました。そして、逆に理解できなかった方でも共感できるという方も一定割合おられました。そのため、引き続き丁寧な説明が必要と考えています。12頁をご覧ください。Q7あなたが備後圏域の玄関口としてふさわしいと思う駅周辺とはどんな場所ですかについてです。左側のグラフをご覧ください。「交通結節点（56%）」が最も多く、次いで、「福山城の史跡が感じられる場（39%）」、「福山城を見たく、行きたくなる場（26%）」が多かったです。右側のグラフは、同じ質問を2020年に無作為抽出で市民4,000人を対象に行った時の結果を参考に示しています。13頁をご覧ください。Q8アンケートの自由意見です。ここに記載しているのは一部で、その他の意見については資料6に記載しています。このように様々な意見をいただきました。14頁をご覧ください。4市民対話集会のとりまとめについてです。今回の市民対話集会は、計画の賛否を問うものではなく、再整備の目的や議論経過を説明し、多様な意見を聴くために行いました。参加者の属性について、アンケート結果によると、性別が男性70%、女性30%でした。年齢は40代以下が25%でした。福山市内の人口構成と比べて、参加者属性に偏りが見られました。そのため、特に参加が少なかった女性や若い世代の意見はヒロバラボなどを通じて、聴いていきたいと考えています。次に、駅前広場再整備の理解について、アンケートでは、市からの説明や質疑応答の内容が「理解できた」「やや理解できた」が48%、「理解できなかった」「やや理解できなかった」が30%でした。また、福山が魅力的なまちとなるために、駅前を再整備することについて、「共感できる・やや共感できる」と回答した人が41%、「共感できない・やや共感できない」と回答した人が50%でした。半数程度は理解いただけましたが、理解できなかった方が一定数いることから、引き続き丁寧な説明が必要と考えています。そして、意見について、付箋に各自の考えを記載いただくことで、多くの方から意見が得ることができました。疑問や意見については、1つ1つ答えていくことが必要と考えています。そして、より多くの市民、より多様な団体などから意見を聴いていくことが必要と考えています。資料2の説明は以上となります。資料3から資料6は時間

の都合上、説明を省略させていただきます。いただいた全ての意見を記載していますので、ご覧いただければと思います。それから次に、赤い表紙の資料があるかと思います。「福山駅を中心とした周辺エリアのにぎわいの創出」と書いてある資料について、本日、まちづくり会社である株式会社 TCH 代表の博多様に参考人としてお越しいただいています。博多様はご自身で福山駅前広場の再整備案を検討され、模型も作成されています。市民対話集会でも、模型を示して、ご意見をいただきました。本日は、その計画案のご説明を頂きたいと思っております。それでは、よろしくお願いいたします。

●博多充宏

ご紹介いただきました、まちづくり会社、株式会社 TCH の博多と申します。本日はこうした時間をいただきまして、皆さん本当にありがとうございます。お手元の資料をもとにご説明させていただきます。まず、1 頁目をご覧ください。1 頁目が現在の福山駅前広場です。2 頁目は我々が計画したプランです。皆さん、もしよろしければ模型の近くにお越しいただいて説明させていただければと思います。たくさんいらっしゃいますので、難しいかもしれませんが、お集まりください。お越しいただける方だけで結構です。資料に基づいて説明させていただきます。まず、我々がこれを作ろうとしたきっかけについて。2022 年 1 月 25 日に開催された第 2 回福山駅前広場協議会において、市から提案されたプランを拝見して、良いことをされているなど感じ、我々ならどういう駅前にしようかと考えたことがきっかけ。ウォークアブルであり、交通結節点としての機能を十分に生かすということがテーマだった。実際に駅前を歩いて、5 回くらい作り直しながら、現在のプラン E という形になった。模型を作った目的は 2 つある。一つ目は、交通結節点としての機能を十分に満たしつつ、JR 福山駅を利用している方々や地元に住んでいる方々が共に憩える広場を造るべきということ。二つ目は、福山市が一生懸命に行われているが、叩き台の一つとして色々な考え方を受け入れてもらいたいということ。それでは具体的に説明する。広場は 3 つのエリアに分けた。目的をもって広場をつくっている。まずは、ばら公園口を出てすぐに円形の広場がある。ばら公園口を出てすぐに大型モニターを設置し、立体感が生まれるような広場を構築している。外周にあるデッキ、私は屋根だと考えている。現状、バス停に行くまでに屋根がない。今年のような暑さや豪雨は、日常生活でさけるべき重要な課題。屋根の下を通して、バス停まで行けるようにしている。そして、屋根をつくるだけだともったいないので、屋根の上を歩けるようにしている。イベント会場を屋根の上からも立体的に見えるように配置している。ここには大型モニターや音響設備、照明施設を常設する。先日、カツナリデナイトがあったが、準備が大変だと思うので、設備を配置することで準備が楽になる。福山城前でやるイベントはやりながら、駅前はまた違うような、誰でも使えるようなイベント広場があれば良いと思う。具体的なイベント内容は、映像や音楽を生かすイベント、カーブやサンフレッチェなどのパブリックビューイング、会場の臨場感を味わえるようなイベントができると良いと思う。音楽フェス、DJ ナイト、映画上映会、地元企業の商品説明会、参加型家族向

けのイベント、後で説明するがインクルーシブ遊具が隣にあるので、それと連携したイベントを開催する。市民参加型の盆踊り、ダンスイベントも可能。屋台、マルシェ、スタンプラリー、街歩き、伝統イベントも良いと思う。文化地域資源を生かすイベントとして、ばら祭りの駅前イベント会場としても使えると思う。福山城もあるので、歴史観光映像展とか、書道パフォーマンスといったことも可能だと思う。その他に、eスポーツを駅前でやってみるとか、災害啓発イベント、冬になれば大きなツリーを持ってくるとか。それ以外に、結婚式をやってみるとか、花火大会のときにお酒を飲んだりもできるといったご意見も伺った。続いて、2つ目。くつろぎ広場について。イベント広場と伏見町の間になんか大きくないが、キッチンカーやマルシェとか、そういった衣食住を楽しめるような広場があればいいかなと思っている。皆さんフリーで使っていただけるような感じ。最後に3つ目。伏見町とバスターミナルの間にインクルーシブ遊具を配置させていただいた。実証実験の時に遊具を置かれていたが、やはり遊具があれば、ご家族の方は来るのだなと感じた。近隣に住んでいる方だったり、もしかしたらバスや電車で遊びに来ることもあるかもしれない。夏の暑いときは危険かもしれないが、冬でもエフピコアリーナで結構遊んでいる。これから春にかけて、非常にインパクトがあると思う。同時にばらのデザインになっている。夜にはライトアップしたいと考えている。福山城が毎日ライトアップされているが、北が福山城、南はばらという感じで、夜の顔ができると思う。広場については以上。続いて、9頁目。交通の結節点。現在、バスターミナルの大きさがかなり広い面積をとっており、乗降場が12バースと待機場が8バースある。これを少しコンパクトにして、乗降場を9バース、待機場を8バースにしている。そして、今もあるが、アイネス前に高速バスになるか観光バスになるか分からないが、3台ほど、バスの待機所もしくは停留所を確保している。そうすることで、駅とバスが一体となった空間ができるのではないかと考えている。10頁目。地下になります。まず、こちらをご覧ください。地下については、アイネスの方には大変申し訳ないが、アイネス前に地下の駐車場への階段があるので、そのあたりを利用して、地下に降りる専用スロープを作っている。そこから、現在の駅南口の駐車場に入ることができ、アイネスと天満屋の間の地下通路は一般車両の乗降場に変えてしまおうと考えています。それから、地下送迎場とつながることで、今の地下送迎場をタクシー専用にしてはどうかと考えています。タクシー専用にするので、地上のタクシーのスペースを地下に降ろせて、地上を広場にできる。同時にニューキャッスルの方につながる道は、アンダーパスで抜けられるように作れば便利だと思う。一般車両の送迎場が遠くなるので可能かどうか分かりませんが、これは今後の検討課題になると思います。次の頁に、各エリアの占有面積を記載している。現在、ざっくりした数字でしか申し上げられないが、バス・タクシー・両側の道路の面積は約6,000㎡ある。このプランにすることで半分くらい、約3,000㎡程度を広場にすることができると想定しています。以上が私からの説明になりますが、道路交通法とか建築基準法などに照らし合わせる必要があります。確定でできるというものではありません。それをご説明しておくが、ぜひ交通結節点という意味での交通の機能と広場との融合・調和ができることで、笑顔とに

ぎわいのあふれる駅前、そして全国に誇れる広場になってほしいということが私の願いです。この後、イメージプロモーションビデオがあるので、それをご覧いただき、イメージを感じていただきたい。(イメージプロモーションビデオ)

ありがとうございます。イメージなので、実際にできるかどうか、課題もあると思う。今後、ふくまちヒロバラボが新たに開催されたり、皆さんから新たなご意見を頂くことになると思う。全てが叶うということは難しいかもしれないが、やはり、これだけのまちで、これだけの方々がいるので、色々な意見を交えながら、対立ではなく対話が生まれる福山駅前にしてもらいたい。是非みなさんよろしく願いいたします。ありがとうございました。

●福山駅周辺再生推進課長

ありがとうございました。続きまして、今後、新たな計画案を考えていくことになるが、これまでの議論のおさらいとして、機能配置の基本的な考え方を、西村委員から模型を使いながら説明していただきたいと思う。模型のところにお集まりいただきたい。

●西村浩

これまでの議論のおさらいをさせていただきたいと思う。今まで皆さんと一緒に議論してきた内容を復習したい。この模型はバスターミナルを北口に配置している状態のままのもの。今後、新たに検討していくことになるが、当時考えていたことが何かをご説明したいと思う。現在の福山駅の駅前広場にはバスとタクシーがあつて、ぱっと見ると、それしか見えないという状態になっている。なんとか玄関口として、福山らしい、福山って良いよねと思われるような駅前空間を造れないかということから、この話は始まっていると思う。福山駅前広場は長方形の形をしていて、バスとタクシーが南側からアプローチして、駅前広場に入ってくる状況になっている。交通量に対して、間口が狭い形状になっている。全ての交通が集まってくるため、当然、正面が交通の風景で占められ、全てが交通で埋まるという状況になっている。駅前広場の正面に改札があるため、こうした状況になっている。ここまで検討してきた内容は、改札の隣にさんすてがあつて、さんすても含めて構内空間があると考えられるというもの。駅前広場だけで全てのアクセスを考えるのではなく、もう少し駅前空間を豊かにしながら、交通結節を最大化するために、駅への接続をさんすてまで広げてはどうかというところから考えている。前回、一旦見送りになったが、北側にバスターミナルを造る案は、バス・タクシー・駐車場を含めて、ダイレクトに駅に直結できる状況を造れないかという発想だった。それによって、冷房の効いた屋内で待ちながら、すぐに乗れる状況を造れないかということを考えてきた。その結果、駅の南側に大きな広場ができるという案だった。これまでの案では、地下に眠っている遺構のラインをきちんと地上に表現することによって、舟入の水辺空間やお堀の広さを広場に立つと認知できるような空間を造っている。石垣の再現によって、ハードな広場と芝生の広場、2つの広場ができることが特徴となっている。例えば、駅前広場のような限られた空間の場合、大きなイベントが行われていると広場が専有

されて、ふらっと来た人の居場所が無くなるということが起こりやすい。しかし、広場が2つあれば、片方の広場でパブリックビューイングやライブなどの大きなイベントが行われていても、もう片方の芝生広場では家族連れがゴロゴロしながらライブを見れたり、マルシェを同時開催できたりする。広場の広さを有効に生かす方法だと思う。もともとお堀があった空間は、普段は広場として使いながら、時々、薄い水盤やミストが出る。夏には子ども達が涼んだり、親は周辺に座りながら遊べるような空間を造れたらいいなという案。これが当時の案だった。交通については、北口にバスやタクシーを集約しながら、駅に直接結節できるところに交通の空間を造ろうと計画していたが、計画が見送りになって、バスやタクシーの配置を改めて検討していかないといけない。また全てを駅前広場の中に戻すと今と同じ状態になってしまうので、バスやタクシーの場所を少しでも譲り合いながら、広場空間を確保することを考えていければと思っている。一つの方法は、博多さんと同じくバスターミナルを駅前広場の南側に配置するパターン。恐らく、バスターミナルの範囲は、乗降場のバースを減らしてコンパクトにするにしても、バスの転回の大きさを考えると、この芝生の広場が全て埋まるくらいになると思う。色々な工夫はあるにしても、それが一つの選択肢。駅前広場の南側にバスターミナルを配置する場合、先ほど、バス乗り場に行くまでの間に屋根を配置すると仰っていたが、駅から歩いて行くのにまあ距離がある。屋外は暑かったり、寒かったりするの、酷な環境なのかなと思っている。そのため、もう一つの選択肢として、例えば、伏見町の北西にロータリーを配置して、さんすての南側にバス停を配置するパターンもあると思う。そうすると、バスに乗る人は改札からさんすての涼しい屋内を歩いて行き来し、屋内でバスを待ちながら、バスが来たら、ぽっと出て乗るというやり方もあると思う。バスターミナルが将来的にずっとそこにあるのかどうか、もしかしたら、様々な開発が進んでいった時に改めて次の場所にバスターミナルを移すという次の選択肢もあるかもしれない。バスターミナルの位置は、駅前広場の南側か涼しい駅構内とダイレクトに直結するさんすての南側が考えられる。駅前広場の南側でバスを降りて駅まで歩くという方法とバスに乗る時間が増えるけど、涼しい駅構内にすぐ入れる方法のどちらを選択するのかということになっていくと思う。さんすての南側であれば、今の計画案と同じような広場にすることができる。西側にタクシーのロータリーを配置すれば、タクシーは南から南に帰ることもできる。改めて、皆さんと一緒に、駅前広場がどうあるべきか、博多さんが提案された様々なアクティビティができるようにするにはどうしたらいいのか、子ども達にどのような広場を用意すればいいのか、考えていきたい。ありがとうございます。

●福山駅周辺再生推進課長

西村委員ありがとうございます。最後に、本日意見をいただきたいことについてです。交通結節機能と広場機能がバランスよく調和した新たな計画案や今後の進め方、大切にする視点について、ご意見をいただきたいと思っています。事務局からの説明は以上になります。

●清水座長

ここから、発言したい方は挙手していただいて、発言してもらいたい。思う存分話していただきたい。

●株式会社築切家守舎

本日言いたいことを最後に言うといやらしい表現になりかねないので最初に述べさせてもらいたい。協議会でいつも申し上げているように、当初の予定を阻むような障害が出てきてはいるが、やはり福山市や福山市民にとって、理想となるものを追求していただきたい。具体的には、博多さんの案でもそうだが、少しでも広い広場空間を確保して、福山市民が誇りに感じられるような駅前空間にほしい。同時に、駅前広場だけでなく、国道まで人が歩けるような広い空間を確保していただきたい。現状の駅前のままで良いと思っている市民は少ないと思っていたが、アンケート調査結果を見ても、今のままで良いと思っている人は少ないという感想。自由意見も読ませていただいたが、良いこともたくさん書いてある。そういうことも計画に反映してもらいたい。約10年前、今の駅前ができたすぐ後に、まちづくりの実績がある方が福山にお越しになられた時に、今の駅前広場を見て、「仮設ですか」と言われた。この言葉をよく思い出す。是非「仮設」と間違われぬような駅前にしてもらいたい。市民対話集会には参加できなかったが、参加された方に聞くと、市が提示された計画に対して反対意見のオンパレードだったと聞いた。年配の方の意見が響いていたと聞いている。若い人も参加されていたらしいが、若い人が発言できる雰囲気ではなかったと聞いた。私も若干、危惧していたが、やはりそういう集会になったかと残念に思っている。また次の機会をつくられるとしたら、もう少し多様な意見が述べやすい、そういう雰囲気の会にしてもらいたい。特に若い方々が、将来この地域に住んで良かったとか、住み続けたいと思ってもらえるようなまちになって欲しいと思っているので、若い人の意見を吸い上げてもらいたい。そういう意味では、ヒロバラボの結果に期待したいと思っている。また、交通体系についても意見を述べよということだが、私は専門家ではないので具体的にどうすればいいという知識はないが、対話集会に参加された伏見町の方が言われたことをご披露したい。その方は、北口へのバスターミナル配置を反対する方々から、伏見町にバスターミナルを作ったらどうかという意見が沢山出た時に、我慢できなくなって言ったと言われていたが、自分たちの近くに持ってくるのが嫌なのに、他人のところに持っていけと言うのは如何なものかという趣旨のことを言われたらしい。そういうと会場がシーンとなったとお聞きした。とにかく、北口に住んでいる人がどうか、駅の南側で商売している人がどうかではなくて、福山市全体が良くなる構想を練り上げていただきたい。ここで誤解をしないでほしいのは、伏見町が交通再編に協力しないということではない。伏見町でも、毎月勉強会を開催している。バスターミナルやタクシーの話が出ている。そこでの大勢の意見は、駅前を良くするためには協力しましょうという意見。今回は、伏見町を含めて、こうして欲しいという構想を

作成して提案してはどうかという意見も出ていた。駅前広場の実現に伏見町としては協力したい。

●福山市商店街振興組合連合会

商店街連合会には11の商店街と4つの大型商業施設が加入しているので、駅前広場の再整備には関心を持って取り組んでいる。市民対話集会に、広場協議会の者が現地で参加するのはどうかと思い、オンラインで昼と夜の部に参加した。集約した資料を拝見させていただいた。まとめるのも大変だったと思う。よくこれだけ集約したと思う。気づきとしては、駅前の治安としては防犯であるとか、自然災害に対する防災、緑化に対するアフターケアなどを含めた手入れの問題など、こうしたものも重要な視点だと感じた。こうした多くの意見が出ていたので、基本計画に取り入れられるものは取り入れた方がいい。市民の対話集会が開催されたことが非常に大事であり、それは評価できると考えている。これまでデザイン会議や広場協議会が開催されてきたが、基本計画を策定するうえで、これまでに集約された意見や計画は尊重されるべきだと思っている。広場協議会にしてもそうだが、各種の団体や組織、町内会、自治会、交通事業者、警察、都市プランナー、学者の方も入っている。そこで集約され、まとめる段階に入ってきているので、尊重されるべきものだと思う。対話集会は賛否を問うものではないと資料に書いてあるが、その通りだと思う。計画に対する色々な意見が出せる場であって然るべき。さんすての解体が難しいという状況の中で広場をどうするかということと交通結節機能をどのように融合させるか、場所を含めて、まとめる段階に入ってきた。広場に関しては、福山城がランドマークなので、城郭の中に駅があるという特徴を生かしてもらいたい。西村委員が説明されたように公園や水辺、大屋根、木陰、水盤など今まで協議会で議論してきたことを中心に広場を確立していければと思っている。また、交通結節機能も大事だと捉えているが、福山駅の特徴として、二重高架であると同時に駅舎がさんすてを含めて東西に長い。さんすても上手に利用してバスターミナルを生かせればと思う。さんすて東側には入り口が3か所あるので、さんすての中でバスを待つ快適性も見込めると思う。伏見町の北側とさんすての南側の間の道路にバスターミナルができて、また木陰で休めるという施設ができれば機能を果たすと思う。また自分で考えたことだが、西側のさんすての二番街の南側も広いと思った。ただ、釣り人像や警察の交番があるので、そこまで動かすのは現実的に無理だなと考えると、博多さんの提案のように、広場の南側に集約する方法もあると思う。個人的な考えではさんすての南側と伏見町の北側の間の道路にできるだけ利便性の高いバスターミナルが出来ればと思う。私も都市のデザインについては素人なので、博多さんや西村委員が提案されたようなプランが出てくる中で集約できればいい。お金がかかると困ると思うが、デザインコンペとかも考えられる。広場と交通機能が集約されたものはこれだと、示してもらえれば議論しやすい。それが市民にとっても魅力あるものであれば、その方が進み方が早いと思う。今後のスケジュールについては、今後、ヒロバラボが開催されるが、対話集会と同じようにそこで出てきた意見を取り入れられるも

のについては取り入れる中で、北側に行く代わりのたたき台のプランがでてきて、3月を目途に基本計画ができるかと望ましい。最後に手前味噌だが、我々のとおり町のストリートガーデンは、2016年に35年間続いていたアーケードを撤去した。アーケードは暗い、危険というイメージだった。ただ、5～6億円をかけて、また新たなものを造ると若い人にその負担が及ぶことになるため、アーケードを撤去して、7000本のワイヤーを張り、下には白の御影石を敷いて、緑のある空間を造った。その後、グッドデザイン金賞を受賞し、評価され全国から視察が続いている。福山駅前広場はこれから20～30年先を見据えて、知恵を絞って、都市の顔として、市民が愛する、誇りだと感じられる駅前をつくってほしいという気持ち。

●福山商工会議所

市民から多くの意見を聴取していることは良いこと。今後も続けてもらいたい。駅前という大きな課題なので、百人百通りの多様な意見が出てくると思う。博多さんや西村委員の提案が見える化して、叩き台として意見集約をするという。叩き台を中心に意見を聴くとまとまってくると思う。もう一つ。広島駅の南側のバスバースのこと。バース数を集約して、コンパクトに収まっている。バス側がどれだけ努力していただけるか。努力していただけないと、スペースが大きいままではバリエーションがもてない。真剣な論議を期待したい。

●広島県バス協会

いつも申しているが、JR福山駅は交通結節点として、福山市にとって非常に重要な場所。我々は駅前の再編事業は、都市のにぎわいを創出し、まちの回遊性向上に寄与するものであり、再編事業そのものには賛成している。市民対話集会では全面広場化を疑問視する意見が相次いだ。市側からも今後も市民対話集会を開いて、ヒロバラボを開催するとの説明があったが、全面広場ありきで進むべきではないとの市民の声がやっと伝わったと評価している。福山駅南側は市内各方面からの交通の動線が交差する重要な拠点。多くの利用者が目的とする南側エリアと直結する南口配置は極めて合理的である。福山城の正式名称は、敵追山（てつぶくざん）朱雀院久松城（すぎくいんひさまつじょう）。北側は鉄で覆い閉ざし、南側は南方の守護である朱雀に守られ、南側を開くという理想のもとに、水野勝成公がまちづくりを始めた歴史がある。歴史的にも地理的にも、バスターミナル南口配置には正当性があると考えている。また広島市、岡山市、呉市などでも駅前開発を行っているが、それぞれ全て交通結節機能を最重要視した整備が行われている。公共交通事業者としては、それが正しい姿だと考えている。バス事業者としては、健康寿命の延長や免許返納のための高齢者のバス利用増加や共働き社会におけるお子様の交通手段の確保、若者の車離れに対応するべく誰もが移動できる権利、いわゆる交通権を守り、併せて将来の自動運転であるとかカーボンニュートラルに対応できる駅前再編事業であるべきだと考えている。我々は、現在の乗合バスターミナルを可能な限りコンパクトにすることを目標にし、一部のバス待機場はバス乗

降場から可能な限り近くの駅前大通りに配置し、DXなどを活用することで、バス待機場と乗降場の間でスムーズな運行ができれば、従来通り、バスターミナルを南側に配置することが可能となり、周辺の交通渋滞、利便性、安全性等、交通結節機能はなんとか維持できると考えている。バスは市民の移動を支える動くインフラ。まちづくりと不可分の存在。福山駅前広場再編事業の今後の計画については、利用者の声、将来の利用者の声、現場の課題、更には持続可能な都市交通政策の観点から、将来に禍根を残さないよう引き続き慎重に検討すべきだと考えている。

●福山青年会議所

対話集会の内容などを見させてもらった。事業目的の部分で、なぜやるのかということに対して質問が出ていたことが気になった。私も前々回の協議会に参加させていただいた際に、広場を造るのは誰のための何のためなのか、ターゲット設定をされているのかという質問をさせていただいた。多くの人を使う広場なので、ターゲットは特段決めていないと回答されたが、やはり誰のためにつくるのかを意識していかないと、どうしても自分事として皆さんが考えられないのかなと感じる。なので、あなた達のために、この人達のためにということをもう少しアピールしていかないと、それが自分たちにとって、良いことなのか悪いことなのか、自分たちにとって使いやすくするにはどうすればいいのか、そういう意識に波及していかないと感じる。博多さんの説明では、結構イメージが湧きやすいと感じられた。そのうえで、福山市として駅前に広場を造る意義やコアなターゲットを今一度固めてもらいたい。我々もまちづくり団体として活動しているが、その際にもターゲット設定を考えている。是非、具体化して共有していただきたい。

●福山市身体障害者団体連合会

北口へのバスターミナル配置については私のイメージではない。やはり南口に持っていくべきだと個人的には思っている。必要な用地を見渡した時、伏見町のところが建物が壊したままになっていたり、昔の建物がそのままだったりする。再開発はどうするのかと思いながら、会場に来た。反対される方の理由が良く分からないのが実情。長い間、伏見町に住んでいる方は、買収されて新しい建物をつくるとなると、自分が住民であれば、反対するだろうと思う。今の地権者が新規の建物を建てて、新規の事業をするのかと考えると、事業費のことや地権者同士の話もあって、それもなかなか進まないだろうなど。そうなるとうなるか。幽霊ビルみたいなものが出来てくると思う。現に、神戸にいくと、幽霊ビルが増加するので、あまり大きな建物は建てさせないということが言われている。であれば、現在の地権者が元の地域に住めるようにしたり、商売している人が元の場所で営業ができるように考えてやらないとだめだと思う。バスセンターを1階でなくてもいいので、2階くらいにもっていく。1階で営業している人がいれば、完成後に同じように入れる。地権者であれば、4階に住めるとか。そうしたやり方で元の地域に残れる配慮が必要なのではないか。上層階

にはテナントやマンション。地権者にも今までの収益を確保するということを考えてやらないと。そうしたことで考えないといけない。単に買収をするという横暴なやり方はいけない。我々、障がい者の中には歩行困難な方がたくさんいる。私も視覚障がい者。距離が長いと難しくなる。できるだけ駅に近いところにつくることが大事だと思う。今後、高齢社会になるので、だんだんそうした方が増えてくると思う。駅前の公園化で気になるのは、先ほど、広場が6,000㎡あるという話だったと思う。模型を見たかったが、私は見えないので、事前に資料を拝見した。私の頭の中では3,000㎡程度の公園ができる、その先にバスターミナルができる。そこまでの動線をどうするか。そういう問題も発生する。できることなら、暑いときには多少冷房が効くとか、そうしたことも踏まえていただきたい。先ほど、タクシーを地下送迎場に配置するという説明があったが、それは良いと思った。それに拘ることなく、まちづくりとして考えていただきたい。

●伏見町町内会

今、伏見町は頑張っている。お店の予約を取るのが大変な状況。僕は大阪に45年間いた。大阪にバスターミナルがあって、そこから全国にバスが出ているからすごく良いなと思った。ただ、伏見町にバスターミナルをつくとまちが無くなる。道と建物だけになる。だから伏見町はだめだと思う。

●広島県タクシー協会東部支部

模型の説明など、色々な想いを感じられた。2度、市と一緒にショットガン方式での実証実験を行った。こうした実験はどんどんやっていくべき。地下送迎場をうまく活用するという仕組みについても、実験をまずやったほうがいい。ストレスフリーな環境はどんな状態か。例えば、タクシーに乗る時に雨に濡れないとか、障がい者が乗りやすい環境とか、バスもなるべく歩かなくても乗れるとか、車両が多少減ってもなるべく駅の近くに配置する仕組みとか。たぶん、色々な想いがあるので、その中からイメージが調和したものが出てくれば、バランスが取れたまちづくりができると思っている。今後人口が減る中で、福山に降りてみようと思ってもらえる駅前、城と調和したような、商店街と一体化したようなまちづくりが必要になってくると思っている。そこにはバスやタクシーなどの交通網が必ずついてくる。駅前のあり方をどうやって見直すか。ストレスフリー、それと非日常の感覚、駅前に降りてみたいと思ってもらえるまちづくり。まだまだ色々な意見があるだろう。全てを取り入れることは無理だが、意見を取り入れながら、これだというものが出てくると思う。よろしくお願ひしたい。

●三谷繭子

市民対話集会の昼の部に参加した。多様な意見があり、気づきもあった。本日も模型で説明していただいたように、全体的な配置や基本的な考え方を聴き、見比べることで新たな

アイデアや課題が見えてくると感じた。基本計画を取りまとめるのが今年度末と発表されているので時間はないが、たたき台を出して、叩いていくしかないと思う。論点の中心は交通結節のあり方、バスターミナルの配置だと思う。バスのように、スペースが必要となる機能の配置が決まらなると議論が煮詰まっていかなないと率直に感じている。駅前広場に人が集まってくるだけでなく、駅前広場を造ることで周りの市街地に対してどのような影響があるのかということもバランスを見ながら考えていく必要があると思う。大きな面積が必要となるバスのロータリーや駅前の交差点のあり方が気になっている。現在は駅前の交差点が大きいので、歩いて行く際、南側への分断を生んでいる。全体的な観点で感じている。バスの配置を考えると、駅前の交差点をまた大きくするのか、それともコンパクトにするのか。駅を中心、駅の前だけでなく、駅の周りに人が歩いて行けるウォークアブルな観点を欠かさずに議論の中心に置いておきたいと思っている。対話集會の話に戻るが、50代以上の方が75%だったということもあって、ヒロバラボも開催されると思う。感想を見ると若い人が引いていたとか、やや蚊帳の外になっていたと感じた。建設的な議論がしたいという感想も出ていたので、ヒロバラボの議論の仕方を考えていけばいいと思う。ヒロバラボは12月までに4回開催される予定だが、今後、基本計画をとりまとめる作業の中で、どのようにヒロバラボと連動しながら、集約されるのか気になっている。ヒロバラボの開催が後の方なので、若い方たちを置いていかないよう、スケジュールを検討いただきたい。

●広島県土木建築局

市民対話集會など意見集約のための様々な取組を事務局や市民の方が一緒に、一生懸命に行っていらっしゃることに敬意を表したいと思う。本日、模型による提案などもあり今後は具体的な計画の検討が進んでいくことになると思う。基本的な視点として、福山駅は備後圏域の玄関口であり、広島県としては中核拠点性と呼んでいるが、福山駅前広場整備によって、福山駅周辺に都市機能がしっかりと集積することがめざすことの一つだと思う。そうした視点をもって、ご検討いただきたい。

●福山市バス交通利用促進協議会

私も市民対話集會に参加させていただいた。色々な意見があった。福山市民は45万人以上いらっしゃるので、もっと意見を聴いてもらいたい。広島県バス協会からもあったが、現在のバスロータリーについては、広いロータリーが必ずいるというわけではない。実証実験でも2バス減らして、十分回った。この先10年を考えると、働き方も随分変わっていくと思う。朝の通勤時間帯に必ずバスが必要ではなくなる。自動運転により中型や小型のタイプが活躍するかもしれない。MaaSの中でタクシーとつないで、家まで運ぶ考え方もあると思う。そういう意味でロータリーのコンパクト化は良いと思っている。色々な意見を聴きながら、交通弱者が利用しやすい環境を構築してまいりたいと思っている。

●三之丸町町内会

私も市民対話集会に参加した。市民の色々な意見を聴く大事な場だったと思う。話を聴いていると、協議会で進めていたことに対して全面的に反対というわけではなく、なんとか良い駅前にしていこうという意見を出していた方もいたと思う。北側にバスセンターを持っていくことは今のタイミングでは難しいという結論。昔から南側を交通結節点として活用していることに慣れている市民にとっては、南側にあるものを北側に持っていくことは違和感を持った方もいたと思う。南側にバスが戻るということで安心する方もいるだろう。北側にバスを移すとしても、南側でバスの乗り降りができるように、市は色々対処の方策を考えていると思っている。市はデッキ方式などで立体的にしていく考えではない。今後、平面利用でどう線引きをしていくかということ。その中で利便性の高い線引きになるとよい。建設費が安い方法が一番良いのではないかと私は思う。大きなまちでは、駅前に緑地を設けるなど公開空地をうまく活用しようという動きは当たり前に見られるが、福山ではそういう緑地を造っても人が集まるのかと心配をされる方もいると思う。ただ、よくよく福山を見れば、夜店やばら祭り、大きなイベントなどは告知と仕掛けをちゃんとやっているの、若い家族連れなど、人がどんどん集まってくる。学区の盆踊りでもこれだけ人がいるのかというくらい人が集まってくる。仕掛けをどうするかを考えておけばいいのかなと思う。福山の価値というか、福山城の文化財。文化財は壊すと価値が全く無くなる。これをなんとか生かせる時期が来ると期待している。これからも楽しみにしている。バスセンターをどこに持っていくのか。博多さんの案では、駅前広場の南側に路線バスの機能を集約して、団体や送迎の乗り場もうまく散らして配置されていて、良いと思う。何はなくとも、早く決めて、実践に向けて活動してもらいたい。

●都市再生機構

私も市民対話集会に参加した。もっと色々な意見を聴いていくべきだと改めて思った。批判的な意見を言う方がいたが、内容はそれぞれ、皆さん色々な観点で発言されていたと思う。皆さん色々なことを考えている。それをもっと聞いていくべきだと思った。意見を聴くときには、逆にちゃんと発信をして、問題提起もして、お考えいただく必要があると思うが、個人的に感じたのは、職業柄、都市の広場は都市に必須のもので、なくてはならないものですと、つい考えてしまうのだが、一般の方にとって、「広場」というものは必ずしもポジティブワードではないとなんとなく感じた。「広場」という言葉を聴かされた時に、都市にとっては余剰、いらぬもの、無駄、贅沢なものだと感じる人が一定数いるということ。私も反省した。やはり言葉だけでなく、イメージがあると分かりやすい。「広場」とはなんなんだということを考えながら、広場の多様性を分かりやすくしていく必要があると思った。これから、若い人の意見を聴くことは本当に大事だと思うが、この空間に何が欲しいですかと聞くだけだといけない。あれが欲しい、これが欲しいということだけになってはいけない。この空間とまちとの関係性が良く分からないようになって、もったいないので、そもそも福

山駅前はどうなことが課題で、どんなまちになって欲しいのか。そのために、駅前がどのような空間になってほしいのか。そんな意見を言ってもらえればと思う。

●博多充宏

説明はさらっとさせていただいたが、3年間で4回作り直した。正直、一人でここまで来るのは大変だったが、この中でも何人かの方に意見を聴きながら現在の形に至っている。模型については、みなさんの想いを成すものであれば、変わっても良いと思っている。ただ、その中で一つだけぶれてはいけない大事な視点がある。それは市の方も説明されているように、年間1,300万人、1日約3万5千人程度が毎日、無条件で駅を利用しているということ。では、この方々はどのような方々なのかと言うと、市内からJRを使ってどこかに行く方、逆にJRを使って福山に来て市内に通われている方、通勤客、通学客、それ以外に恐らく観光客、出張客。福山には企業が非常に多く、JFEなどの大きな会社が沢山ある。昔は支店があったのだが、それがどんどん無くなって、恐らく、出張されている方が結構いらっしゃる。そうすると、その人達にとって、福山駅前に何があるといいのかという視点を忘れずに付け加えて、みなさんで考えていただけると非常にありがたいと思っている。この模型は9月21日までイチセトウチに展示しているのでいつでも見てもらいたい。最後に今日まで福山駅周辺再生推進課には大変お世話になった。引き続きよろしくお願ひしたい。本当にありがとうございました。

●清水座長

最後にみなさんの発言を踏まえて、少しお話したいと思う。色々な意見があるということが率直な感想。それはこの前の対話集會も含めてのこと。ただ、全体として感じたことは、今の駅前広場の状態、改善できる場所は多々あるなということが率直な感想。ただし、これを一つの案にまとめ上げて、今後どうしていくかということとはなかなか大変なこと。しかし、それをしっかりやっていくしかない。更に、まだ説明が足りていないなということも感じた。市は一生懸命検討されて、考えていると思うが、その説明が不足していないかということ。もう一度考えないといけないと思う。より多くの市民の方々、特に年代層でいうと、若い方々がまだまだあまりこの話を知らされていないのか、あるいは知っていないのかということを含めて、この後、出来るのが10年先の話なので、駅前広場を使いこなしていく人達ももっともっとこの議論に参加してこないといけないと非常に強く感じた。先ほどから話に出ているが、ヒロバラボに大変期待しているところがある。皆さんが傍聴できるのか。発言はできないにしても、関心がある方が傍聴できるようにしてもらいたい。年齢が若い方々が中心となって、このことを福山に定着させていくことがすごく大事だと思う。そのためには、年配の方々も年齢層の違う人達がどんな会話をしているのか、どのようなことを考えているのかを知ることがとても大事だと思う。それをやっていただきたい。若者や子育て世代の女性が大事だが、この場に女性は2名のみ。圧倒的多数が中年以上の男性に占められ

ている。私もその筆頭格。大変残念なこと。偏ったものになってしまいがち。若者や子育て世代の意見を聴いていくヒロバラボにどこかで出てみたい。皆さんにも関心をもってもらいたい。市役所の事務局をお願いしたいことだが、この後、年度内に集約化したものをまとめないといけないというお立場だと思うので、今日の意見を参考にしながら、対話集会の意見を含めて、叩き台となる計画案をまとめてもらいたい。時間が限られており、大変だとは思いますが、寝ずにとは言いません、よく食べて、よく休んで、すっきりした頭で、これまで意見聴取はよく行っていると思いますので、意見を参考にした計画案を作成してもらいたい。次回の協議会の11月あたりを目途に、まずはたたき台を作成していただきたい。どうぞよろしくをお願いしたい。

《閉会挨拶》

●企画財政局参事

ありがとうございました。様々な意見を参考にさせていただきたいと思う。座長にもまとめてもらったように、今の駅前広場のままではなく、改善の余地があるということは一致した意見だったと思う。それと、各種団体などの意見をもっと聴いた方がいいという意見があった。次回、叩き台を作成するためには、これまでの協議会や先日の対話集会の意見とか、これから各種団体の意見も聴きながら、次回の協議会までに叩き台を準備したいと思う。それから、若者の意見をもっと聴くべきだと言う意見があり、ヒロバラボに期待される意見もあった。女性の割合についての話も座長からあったが、ヒロバラボは半数以上が女性です。ワークショップ形式なので、分かりやすく傍聴できるかどうかも含めて情報発信を検討していきたい。本日の皆さんの意見も参考にしながら、次回までにたたき台を準備したい。本日はありがとうございました。

●事務局

これをもちまして、第11回福山駅前広場協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

以上